

図書館だより

江北高校図書館
第 11 号 2025.3

今年度、多く読まれた本

- 1 『成瀬は天下を取りに行く』 宮島未奈
- 2 『変な絵』 雨穴
- 3 『ころも』 夏目漱石
- 4 『近畿地方のある場所について』 背筋
- 5 『変な家 2』 雨穴 『余命 10 年』 小坂流加
『成瀬は信じた道をいく』 宮島未奈 『告白』 湊かなえ
『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス

本の貸出が多かったクラス

1 年生	2 年生	3 年生
<u>1</u> 1 - D	<u>1</u> 2 - A	<u>1</u> 3 - A
<u>2</u> 1 - B	<u>2</u> 2 - B	<u>2</u> 3 - E
<u>3</u> 1 - G	<u>3</u> 2 - F	<u>3</u> 3 - B

3/7 (金)～ 春の特別貸出期間

貸出冊数…20 冊まで 返却期限…4/11 (金)

* 漫画や雑誌、参考書なども対象です。

図書の紹介

『アンテン様の腹の中』 夜諏河 樹

知る人ぞ知る名作漫画。ネットの広告で見たことがあるかもしれない、ジャンプ+の。

アンテン様は少女の姿をした神様（妖）。大切なものと交換で願いを叶えてくれる。ただし、願った本人が亡くなった時点ですべて消えてしまう。交換というところに「猿の手」のような悪いことがセットで起きるような印象があるが、アンテン様はそんなことはない。あくまでも中立で純粋に願いをかなえるだけ。だからそこで繰り返されるのは純粋な人間ドラマになる。全 5 巻の中には現代の話もあれば江戸時代、それ以前の話もある。アンテン様は人間が望む限り存在するから。なぜ少女の姿なのかは最終話で描かれるが、お互い孤独なものが心を通わせやがて悲劇を迎えるクライマックスは出色。

cover

『コウペンちゃんとななぶ日本の美しい言葉』 金田一 秀穂

暖かくなったり寒くなったり、「三寒四温」という言葉がぴったりの時期になりました。本格的な春が待ち遠しいと思っている人が多いのではないのでしょうか。

日本には、季節の移り変わりを表現するさまざまな言葉があります。その中でも、現在ではあまり使われなくなった美しい言葉をたくさん紹介してくれているのがこの本です。

例えば、「初雪」という言葉は皆さん知っていると思いますが…「初蝶」という言葉はご存知でしょうか？ なんとなく情景が浮かんだ人は、言葉のセンスに自信をもっていいと思いますよ！ 新しい季節を心待ちに、寒い日乗り越えていきましょう。

cover

一年間ありがとうございました。来年度も面白い本を

たくさん入れていくので、楽しみにしていて下さいね！